

# やる気を引き出すために

2019年11月29日

花まる学習会・スクールFC 松島 伸浩

## 1 やる気を生む基本的なサイクル

- (1) やる気の入り口はどこからか。
  - ①気まぐれロマン男子、堅実リアル女子。
  - ②思春期では親子の関係性が変わる。友達や先輩、塾や部活の先生からの影響力。
- (3) 失敗して学ぶ時代へ。
  - ①大人でも予測不可能な未来だからこそ、自分の進むべき道を自分の意思で決められる子にする。
  - ②失敗して自信をなくす子と自信をつける子。
- (4) 自信の芽を育て自己肯定感を育む。
  - ①数学が5、英語が2の通知表。
  - ②自己肯定感は他人から認められることで育まれる。

## 2 子どもがやる気にならない理由

- (1) 「やってもできない」とあきらめている。「面倒くさい！」を連発している。
  - ・そもそもやり方を知らない。周りがあきらめているケース。基礎力不足によるスパイラル。
- (2) いつも叱られてばかり。
  - ・叱るタイミング…ルール決め。納得感。幼児期は例外もあり。
- (3) 周りとの比較。兄弟姉妹、親戚、友達。
  - ・子どもの問題よりも大人の問題？
- (4) 勉強できる環境が整っていない。
  - ・時間が決まっていない。テレビが一日中ついている。ゲームやマンガが散乱している。
- (5) 親のお膳立て、口出し。
  - ①やらされている勉強は楽しくない。
  - ②勉強も生活の一部。まずは生活面で自分のことは自分でさせる。やる気は自立の中で生まれる。
- (6) 事例：受験がつないだ父と娘の絆。

## 3 やる気を引き出すために親ができること

- (1) 親自身が心に余裕をもつ。
  - ・完璧を目指さない。夫源病に注意。
- (2) 大人が楽しんだり感動したりする姿を見せる。
  - ・当たり前前の空気づくり。押しつけにならないこと。
- (3) 結果に対しての声のかけ方。
  - ①失敗の中に認める材料を見つける。
    - 「30点のテストを持ってきた」
    - ・できなかった理由ではなくできた理由を聞いてあげる。
  - ②小さな変化を見逃さず、成長の芽を伸ばす。

- ・大人からすれば些細なことも子どもにとっては大きな変化。
- ③「どうして、なんで？→でも、だって」のループにはまらない。
- ・「次、どうする？」と自分で考えさせることが大切。

(4) 親が勉強を教えるときの注意点。

- ①正しい答え、やり方にこだわらない。
  - ・遠回りでも自分の頭で考えているかが重要。
- ②あくまでも子どもが主体。教えすぎない。
  - ・わかったつもり、わかったふりをする子にしない。
  - ・優秀な親を子どもは望んでいない。「わかった？」ではなく、子どもの理解度を測る方法とは…。
- ③目標や計画の立て方、ノートの作り方・使い方などを知らない子は多い。
  - ・型だけは教えて、あとは子どもに作らせてみる。
- ④基礎を軽視しない。計算と漢字はすべての土台。
  - ・算数が苦手な子の多くは、くり上がり、くり下がり、九九が完璧ではない。
- ⑤できないことをできるようにすることが勉強。ごまかし勉強は「絶対ダメ！」と教える。

(5) 家庭でのコミュニケーションの時間を大切にす。

- ①食事の時間は大切なコミュニケーションの場。
- ②わが子に伝えるべきこと。子どもの意見も真剣に聞く。親が相談する形でもよい。
- ③わが子の良いところ、強みを言葉にしてあげる。

(6) 机上では得られない上質な体験を数多くさせてあげる。何に興味があるのかしっかりと観察する。

- ①博物館、美術館、図書館、遺跡・城めぐり、農業体験、コンサート、アウトドア、ボランティア。
  - ・見て感じて考える経験。リビングに家族共通の本棚をつくる。
  - ・勉強が好きな子にする前に、考えることが好きな子に育てる。
- ②スポーツには非認知能力を伸ばすための要素が満載。
  - ・コミュニケーション力、リーダーシップ、クリエイティビティ、ホスピタリティ、集中力、粘り強さ。
  - ・体力がつけばメンタルが安定し、学習意欲につながりやすくなる。

4 やる気は、「期待をかけ、自立させ、信頼する」ことから生まれてくる

- (1) 信じて、励まし、見守る勇気。そして親があきらめないこと。
- (2) 親に愛されたという経験は、社会に出てからの支えになる。
- (3) 私が親に感謝していること。

5 最後に

それぞれの家庭にそれぞれの子育てがあります。「悩みに悩んで出した答えがわが子にとって最善の選択」だと私は思います。また「子育ては親育て」、子どもから学ぶこともたくさんあります。親として人として成長できる機会を子どもが与えてくれているとも言えるのではないのでしょうか。

実際に子育てに関わる時間は長いようで短いものです。心配や苦勞も絶えませんが、巣立つ日が来るまで、家族で楽しい思い出をたくさん作っていただきたいと思います。